



取 付 説 明 書

E S T I M A

A C R 4 0 W

A L P H A R D

A N H 1 5 W

BLITZ

(1) 安全上のご注意

■ はじめに

- ・ この製品についての説明には、製品を使用する際と、自動車に装着する際の注意事項が詳しく記載してあります。良くお読みになって、正しくお使いください。
- ・ 装着車両に、この製品システム以外の製品装着や改造を行った場合に発生する不具合に関して、弊社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ・ お客様ご本人または第三者の方が、この製品および付属品の誤った使用や、その使用中に生じた故障、その他の不具合によって受けられた障害については、弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ・ この製品および付属品は、改良のため予告なく変更する事があります。
- ・ キットの構成部品はパーツリストに記載してあります。取り付け前に異品・欠品の無いことを確認してください。

■ 警告

この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される危険の状況を示します。

- ・ 換気の良い場所で取り付け作業を行ってください。
換気の悪い場所で作業を行うと、爆発・火災の原因となります。
- ・ バッテリーのマイナス端子をはずしてから、取り付け作業を行ってください。
配線のショートなどによる火災、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ コネクタを外す場合、ハーネスを引っ張らず、必ずコネクタを持って取り外してください。
ショートなどによる火災、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ この製品に異音・異臭などの異常が生じた場合には、製品の使用をすみやかに中止し、販売店または弊社までお問い合わせください。
そのまま使用すると、感電や火災、電装部品の破損の原因となります。
- ・ この製品の取り付け時に、エンジンルーム内の電気配線や配管類を傷つけないよう注意してください。
ショートなどによる火災、電装部品・エンジン・車両の破損の原因となります。
- ・ 部品交換は自動車が不安定な状態で作業すると危険です。必ず自動車作業専用リフトを使用して、安全に作業してください。
【二柱式リフトをお勧めします】
やむをえずガレージジャッキを使用する場合は、必ずリジトラック（馬、安全スタンド）を併用して安全に作業してください。車載ジャッキでの作業は危険なので絶対に行わないでください。

■ 注意

この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと、人が軽傷また中程度の傷害を負う可能性が想定される危険な状況および物質損害の発生のみが想定される状況を示します。

- ・ この製品の取り付けは、必ず専門業者に依頼してください。
取り付けには専門の知識と技術が必要です。
- ・ この製品を装着前に落下させたり、装着時に無理な力を加えないでください。
作動不良や空気漏れの原因になる場合があります。
- ・ この製品の加工・分解・改造は行わないでください。
事故、火災、感電、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ この製品の取扱いは慎重に行ってください。落としたり強いショックを与えないでください。
事故、火災、感電、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ エンジンルーム内の温度が下がってから、作業をはじめてください。
エンジン本体、ラジエター、排気関係の部品は高温になり、火傷の恐れがあります。
- ・ 定期的に点検を実施し、十分に注意してご使用ください。
この製品は耐久性を考慮して、厳選された材料を使用し、厳重な社内品質管理のもとに製造されていますが、車両の使用条件などにより、耐久性が落ちたりする事があります。
- ・ 取り付け作業のために一時的に取り外す純正部品は、破損・紛失しないように大切に保管してください。
当社は取り付け作業による物的損害の責任を負うことはできませんので、慎重に作業を行ってください。
- ・ ボルト・ナット類は、適当な工具で確実に締め付けてください。
必要以上に締め付けを行うと、ボルトのネジ部が破損します。

■ 重要事項

- ・ この製品はノーマル車輛を基準に製作されています。
ノーマル車輛以外に取り付けた場合は、製品の機能・性能及び安全性・耐久性について保証いたしかねます。
- ・ 製品装着時は、異物が混入しないよう、十分に注意をしてください。
異物等が混入すると最悪の場合エンジン破損の原因になる場合があります。
- ・ 純正部品の取り付け、取り外しの作業はメーカー発行の整備要領書をよく読んでからおこなってください。
整備要領書がお手元にない場合はメーカーにてご購入ください。
- ・ 走行前には、オイル・冷却水・排気ガス等の漏れがないか点検を行ってください。
漏れのある状態での走行は、車輛火災やエンジン破損等の恐れがあり危険です。
- ・ このキットは**ハイオクガソリン指定**となります。
レギュラーガソリンを使用しますとノッキング等を発生させ、最悪の場合エンジン破損の原因になる場合がありますので、必ずハイオクガソリンを使用してください。
燃料タンクのカソリン入れ換え作業は危険を伴いますので、特に火気に注意してください。
- ・ 本キットを取り付ける際は必ず**点火プラグを熱価の高いものに交換**してください。

【作業の方へお願い】

作業が終了しましたら、本取扱説明書は必ずお客様に返却してください。

作業にとりかかる前に必ず下記の点を点検してください。

■純正のホースやバンド等の部品に変形、割れ、ひび等の劣化が生じていたら純正品の新品に交換してください。

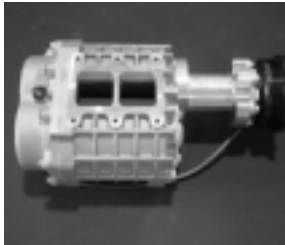
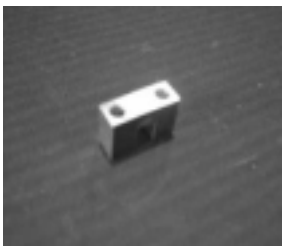
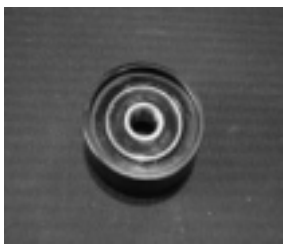
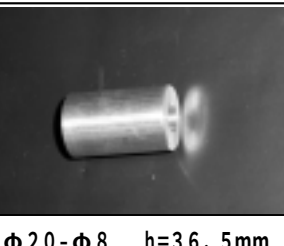
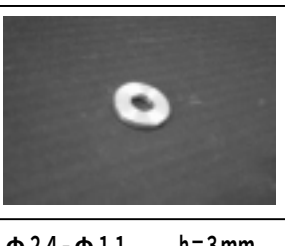
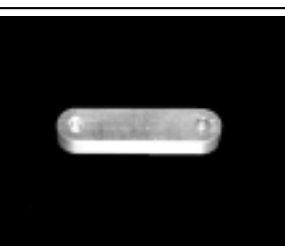
(2) 適合車種

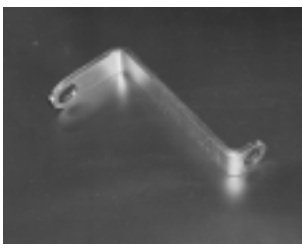
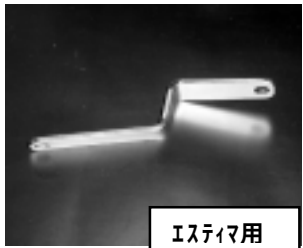
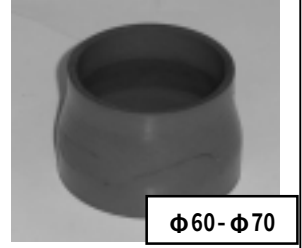
◇製品名称: BLITZ COMPRESSOR SYSTEM

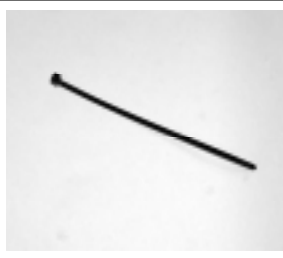
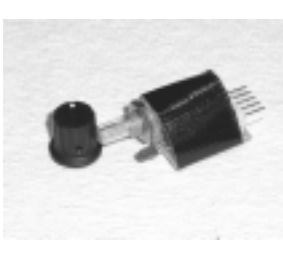
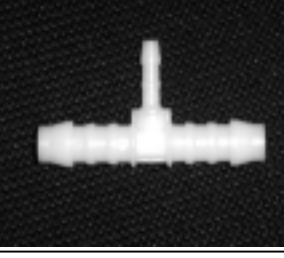
☐車 名: TOYOTA ESTIMA
☐型 式: ACR40W 4WD AT車
☐E/G型式: 2AZ-FE
☐年 式: 2000年 1月～2003年4月
☐製品番号: 10155

☐車 名: TOYOTA ALPHARD
☐型 式: ANH15W 4WD AT車
☐E/G型式: 2AZ-FE
☐年 式: 2002年 5月～2005年3月
☐製品番号: 10155

(3) パーツリスト

1. コンプレッサ-本体 1ヶ 	2. インレットチャンバー 1ヶ 	3. アウトレットチャンバー 1ヶ 	4. コンプレッサ-ガスケット 2ヶ 
5. スロットロッド・ディ ガスケット 1ヶ 	6. コンプレッサ-ブラケット A 1ヶ 	7. コンプレッサ-ブラケット B 1ヶ 	8. コンプレッサ-ブラケット C 1ヶ 
9. テンショナー-ブラケット A 1ヶ 	10. テンショナー-ブラケット B 1ヶ 	11. テンショナー-ブラケット C 1ヶ 	12. テンショナー-ボルト 1ヶ 
13. テンショナー-プーリ 1ヶ 	14. アイドラー-インナー 1ヶ 	15. オルタネータ-プーリ 1ヶ 	16. インタークパイプ 1ヶ 
17. サクションパイプ 1ヶ 	18. オルタネータ カラー 1ヶ  $\phi 20 - \phi 8 \quad h=36.5\text{mm}$	19. ブラケットスぺーサ 1ヶ  $\phi 24 - \phi 11 \quad h=3\text{mm}$	20. リザーバ-移動ステー 2ヶ 

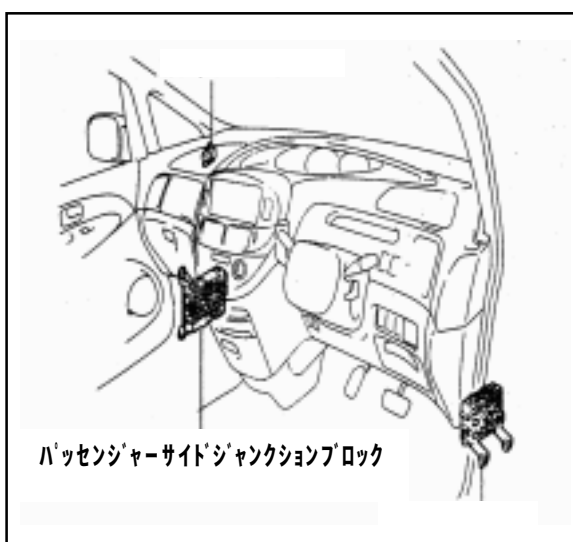
21. スロットルホッディ ステア 1ヶ 	22. クリーナーステア 1ヶ  エスティマ用	23. クリーナーステア 1ヶ  イフサム用	24. クリーナーステア 1ヶ  アルファード用
25. Vベルト 大 1ヶ 	26. Vベルト 小 1ヶ 	27. レギュレータ 1ヶ 	28. ハイミッドホース 1M 
29. シリコンチューブ Φ6 1M 	30. ストレートニップル Φ8 2ヶ 	31. CAGホース Φ18 1M 	32. シリコンホース Φ60 2ヶ 
33. 異径シリコンホース 1ヶ  Φ60-Φ70	34. ホースバンド SS 2ヶ 	35. ホースバンド S 7ヶ 	36. ホースバンド M 5ヶ 
37. ホースバンド L 1ヶ 	38. Φ7コルゲートチューブ 1ヶ 	39. クリーナーアダプター 1ヶ 	40. LMクリーナー 1ヶ 

41. コンプレッサープレート 1ヶ 	42. タイラップ 20ヶ 	43. 無鉛プレミアムステッカー 2ヶ 	44. 取扱説明書 1ヶ 
45. リレーハーネス 1ヶ 	46. 電磁クラッチ用スイッチ 1ヶ 	47. 切替スイッチ用プレート 1ヶ 	48. スイッチコントローラ 1ヶ 
49. ギボシ・スリーブセット 各3ヶ 	50. エレクトロタップ 3ヶ 	51. ニップルΦ8-4-8 1ヶ 	

①六角ボルト M6×12 2ヶ	②フランジボルト M6×16 10ヶ	③フランジボルト M6×30 1ヶ	④フランジボルト M6×35 1ヶ
⑤キャップボルト M6×30 3ヶ	⑥フランジボルト M8×25 3ヶ	⑦キャップボルト M6×25 2ヶ	⑧キャップボルト M8×30 3ヶ
⑨キャップボルト M8×75 2ヶ	⑩フランジボルト M10×25 3ヶ	⑪フランジボルト M10×35 3ヶ	⑫六角ボルト M10×55 2ヶ
⑬フランジナット M8 1ヶ	⑭フランジナット M10 5ヶ	⑮ワッシャー M8 2ヶ	⑯ワッシャー M10 2ヶ
⑰フランジナット M6 1ヶ	⑱小型六角ボルト M10×35 1ヶ	⑲フランジボルト M10×40 1ヶ	

(4) 燃料流出防止作業

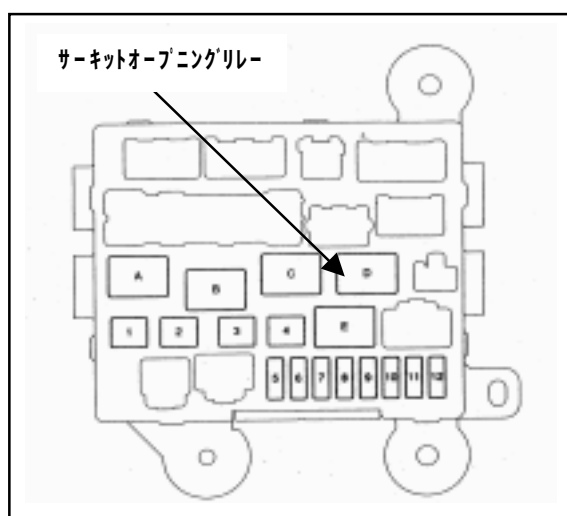
- (1) サーキットオープニングリレーを取り外す。
 - (2) エンジンを始動し、自然に停止したゴイグニッションスイッチをOFFにする。
 - (3) バッテリーのマイナス端子を取り外す。
 - (4) サーキットオープニングリレーを取り付ける。
 - (5) フューエルキャップタンクを外しフューエルタンク内の圧力を抜く。
- ※ サーキットオープニングリレーの位置は下記を参照してください。



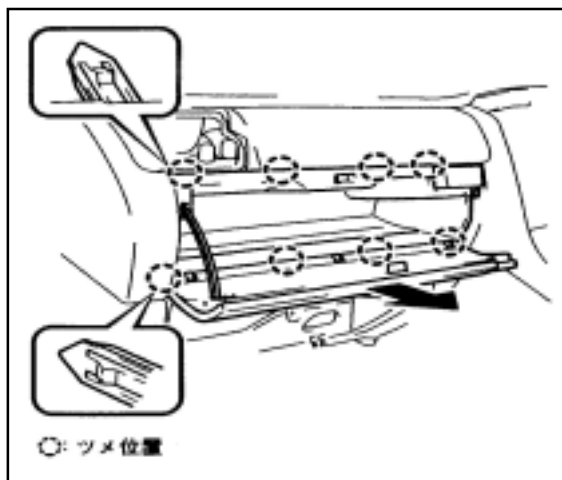
エスティマの場合

- 1 助手席のフロントドアスカッフプレート及びカウルサイドトリムボードを取り外す。

※左図の位置(パッセンジャーサイドジャンクションブロック)にサーキットオープニングリレーがあります。

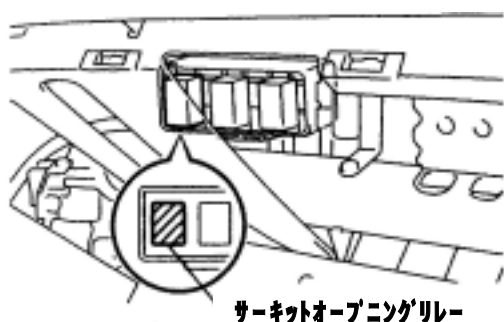


※ 左図矢印の位置がサーキットオープニングリレーです。



アルファードの場合

- 1 図の矢印方向に引き、ツメ8箇所のかん合を外す。
- 2 コネクターを切り離し、インストルメントパネルボックスを取り外す。

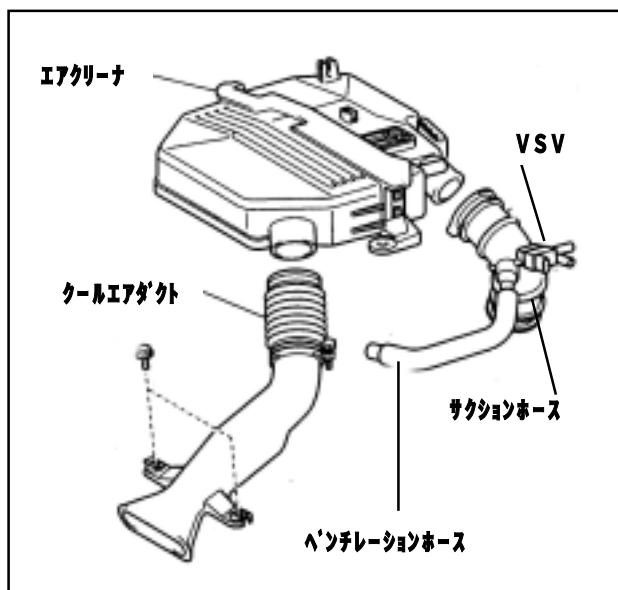


サーキットオープニングリレー

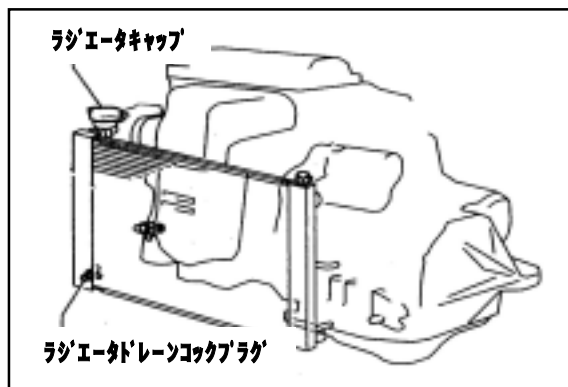
※ 左図の位置にサーキットオープニングリレーがあります。

(5) 純正部品取り外し作業

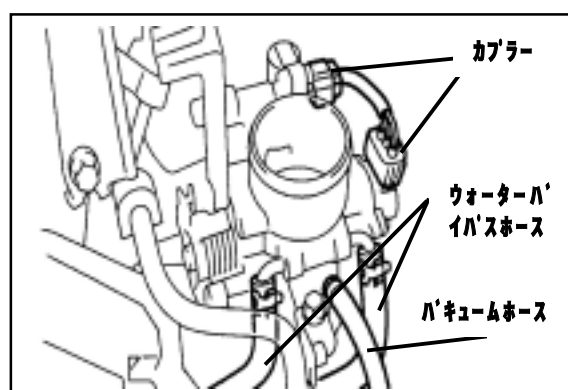
- (1) エアクリーナーを取り外し。
- (2) サクションホースを取り外す。



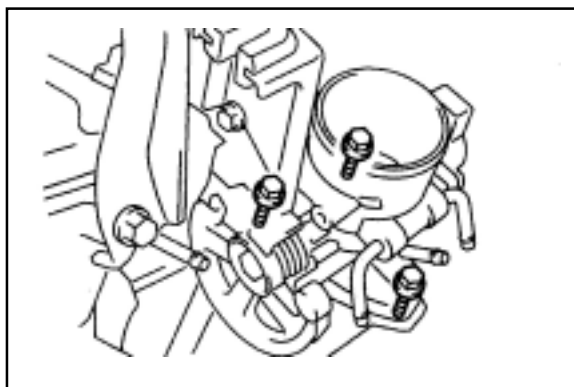
- 1 クールエアダクトを取り外す。
- 2 エアクリーナよりサクションホースを切り離す。
- 3 エアフロメータのカプラーを切り離す。
- 4 ボルト2本を外し、エアクリーナを車両前方へ引き、ブラケットのかん合を外して取り外す。
- 5 VSVをサクションホースより切り離す。
- 6 ベンチレーションホースをサクションホースより切り離す。
- 7 クランプを緩め、サクションホースを取り外す。



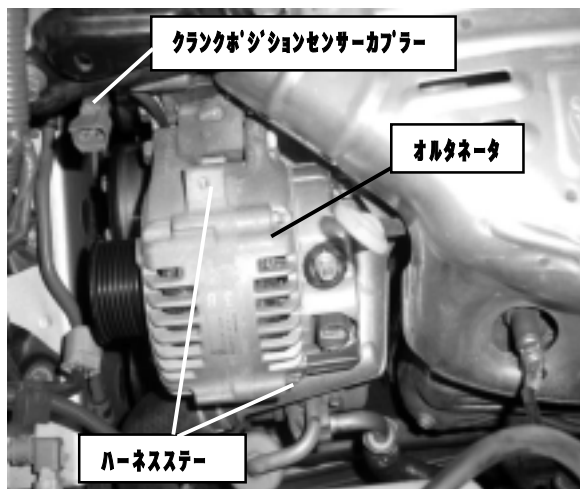
- (3) ラジエータキャップを取り外す。
 ※ エンジンが高温時の時はラジエータキャップを外さない事。
- (4) 側のラジエータドレンコックプラグを緩め冷却水を抜き取る。



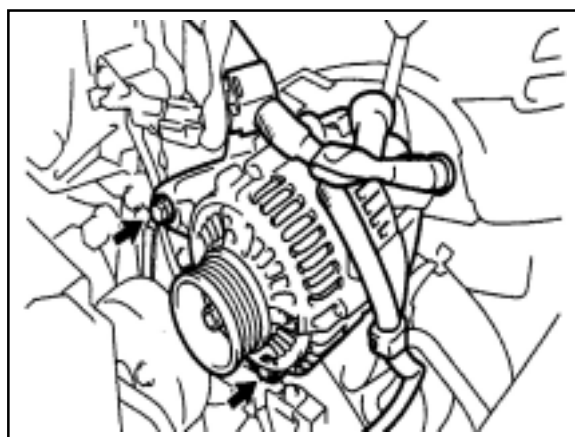
- (5) スロットルポジションセンサーのカプラー及びアイドルスピードコントローラのカプラーを切り離す。
- (6) アクセルコントロールケーブルを切り離す。
- (7) バキュームホースをスロットルボディより切り離す。VSVからも切り離し、バキュームホースを取り外す。
- (8) ウォーターバイパスホース2本を切り離す。
- (9) ボルト3本を外し、スロットルボディを取り外す。



- (10) 左図矢印の位置に工具をかけ、Vベルトテンショナーをゆっくり時計方向に回してVベルトを取り外す。



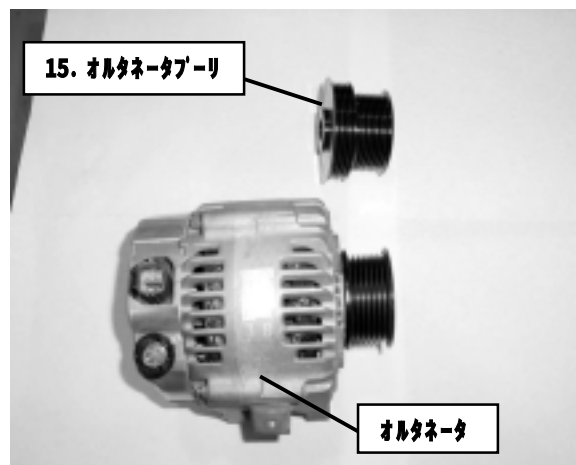
- (11) オルタネータのカプラー、ワイヤクランプ及び+B端子を切り離す。
- (12) オルタネータに付いているハーネスステーを2個取り外す。
- (13) クランクポジションセンサーハーネスをカプラーより切り離し、ステーも取り外す。



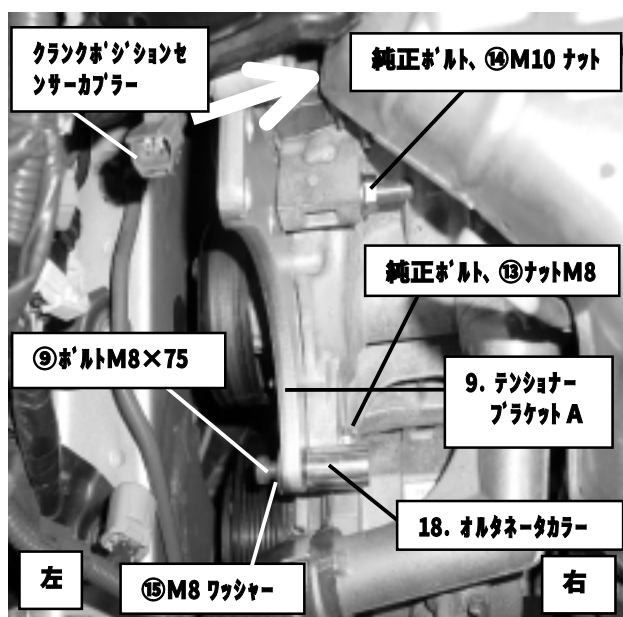
- (14) 左図矢印の位置のボルトを外し、オルタネータを取り外す。

(6) コンプレッサーキット取り付け作業

※ 45. リレーハーネスの青線を、運転席側から室内に引き込んでください。その後作業の邪魔にならない所に、45. リレーハーネス本体をよけておいてください。



- (1) オルタネータのプーリセンターナットを緩めプーリを取り外す。
 - (2) 付属の15. オルタネータプーリを差し込み、外したナットで締付ける。
 $T=100.0\text{ N}\cdot\text{m}$ (1020 kgf·cm)
- ※ プーリセンターナットを締付ける時ネジロック剤を塗布してください。



- (3) 写真を参考に9. テンショナーブラケットAを純正オルタネータの位置に外したボルト2個と付属の⑭M10フランジナット、⑬M8フランジナットを使用して締め付ける。

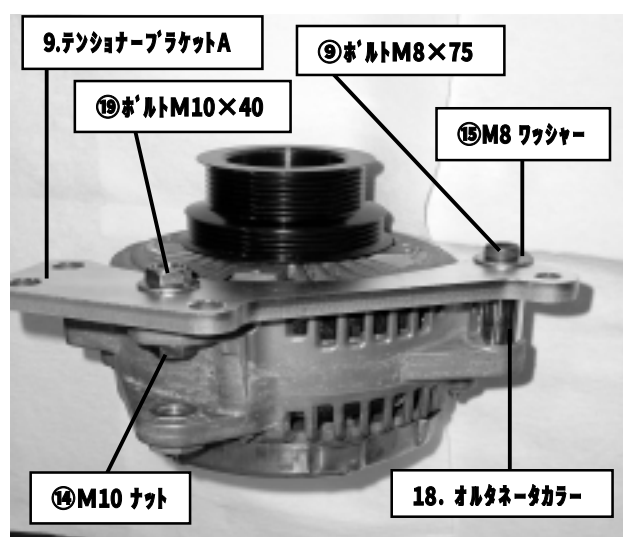
$T=21\text{N}\cdot\text{m}$ (214kgf·cm) (M8)

$T=52\text{N}\cdot\text{m}$ (531kgf·cm) (M10)

- ※ この時、クランクポジションセンサーカブラーを矢印の方向 (9. テンショナーブラケットAの右側) に持ってくる。

- ※ クランクポジションセンサーハーネスを9. テンショナーブラケットAとエンジンブロックの間に挟まないようにしてください。

- (4) 9. テンショナーブラケットAの手前下の穴に⑨キャップボルト M8×75、⑮M8ワッシャー、18. オルタネータカラーを図のように差してください。



- (5) 左写真を参考にオルタネータを9. テンショナーブラケットAに⑮フランジボルトM10×40、⑭M10フランジナットを使用してエンジンルーム内に取り付ける。

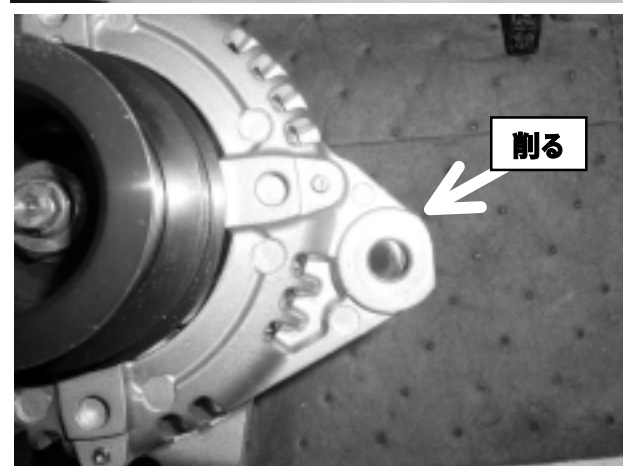
$T=21\text{N}\cdot\text{m}$ (214kgf·cm) (M8)

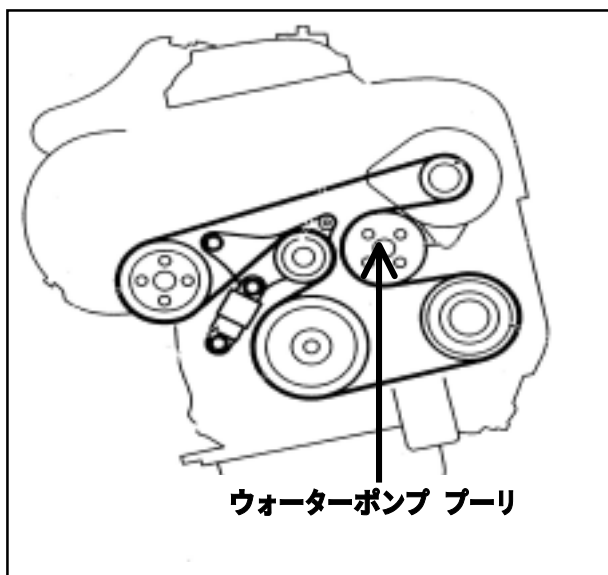
$T=52\text{N}\cdot\text{m}$ (531kgf·cm) (M10)

- ※ ボルトを締付ける際にエンジン側にオルタネータを押しながら締付けてください。エンジン寄りでない場合、ベルトが、かけづらくなってしまいます。

- ※ オルタネータを9. テンショナーブラケットAに取り付ける際に、エンジンブロックにオルタネータが当たってしまう場合には、左図の位置を若干削ってください。

- ※ オルタネータ取付の際にオイルレベルゲージに当たってしまう場合には、オイルレベルゲージをエンジン側に押し曲げてください。

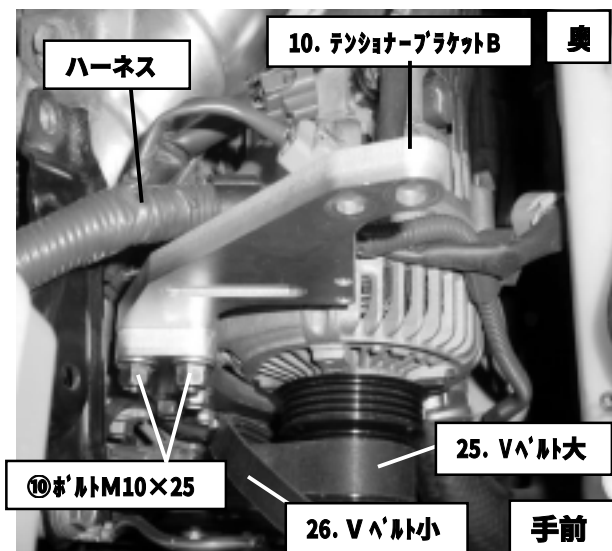




- (6) オルタネータプーリの内側(4リブ)に付属の**26.Vベルト 小**を掛けておき、プーリの外側(7リブ)に付属の**25. Vベルト大**を取り付けます。取付の手順は10ページ(10)項のVベルト取り外しと逆の手順で**25. Vベルト大**を取り付ける。

※ ベルトをかける際は、左図のウォーターポンプの背面プーリでかけるようにしてください。

※ Vベルトがきつく取付できない場合には、再度オルタネータを緩め、エンジン側に寄せるようにしてください。

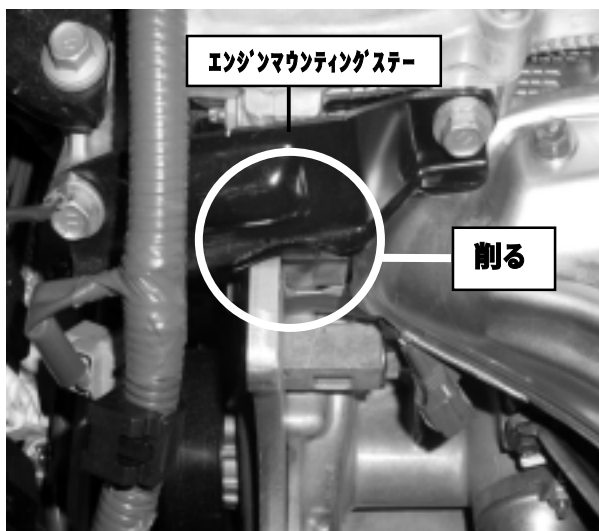


- (7) **10. テンショナーブラケットB**を9. テンショナーブラケットAの奥側に付属の**⑩フランジボルトM10×25** 2箇所を使い、仮止めする。

※ このときにハーネス類を10. テンショナーブラケットAの奥側にまわし、コネクター、ワイヤー Clamp 及び +B 端子を取り付ける。

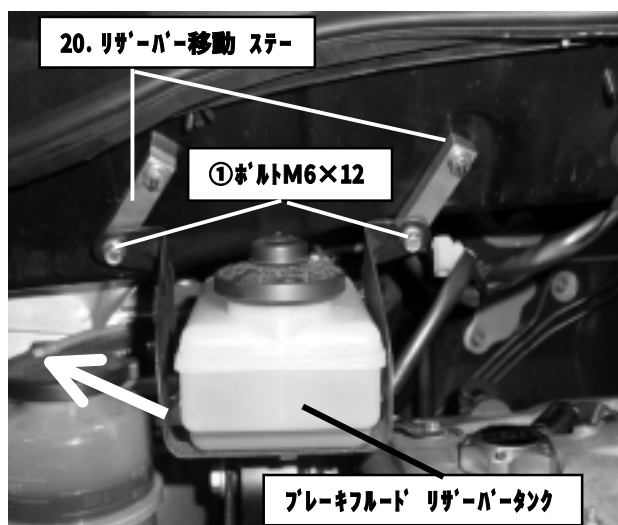
T=9.8 N・m (100 kgf・cm) (+B 端子)

※ クランクポジションセンサー ハーネスカバーが届かない場合は、写真ハーネス位置のコルゲートを届く所まで剥いてください。

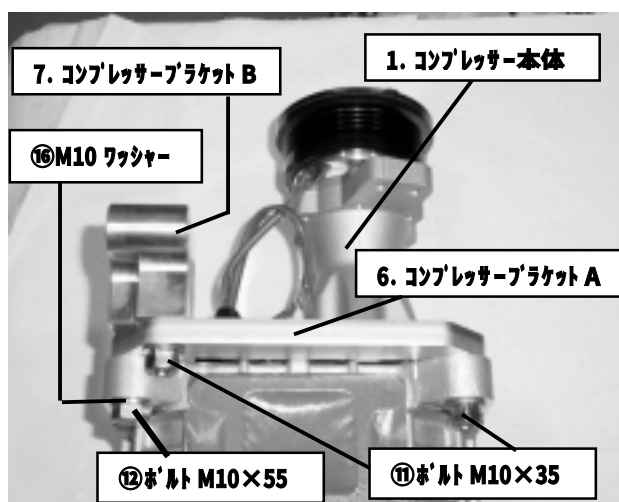


※ **アルファード**は、10. テンショナーブラケットBにエンジンマウンティングステーが接触してしまうので左写真の○の部分の削ってください。

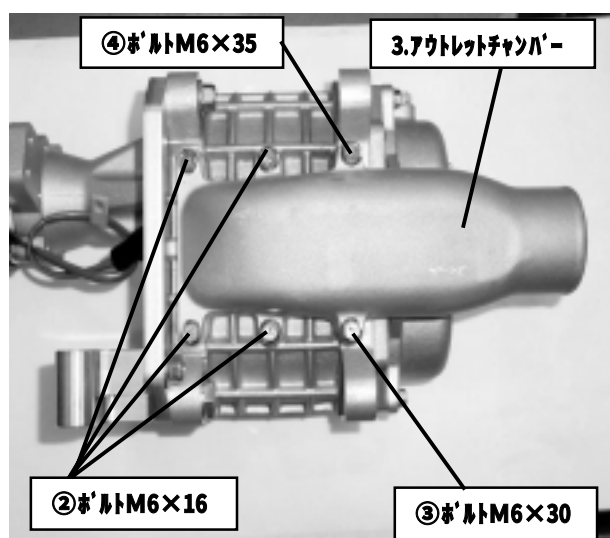
※ 加工した所は防錆処理を行ってください。



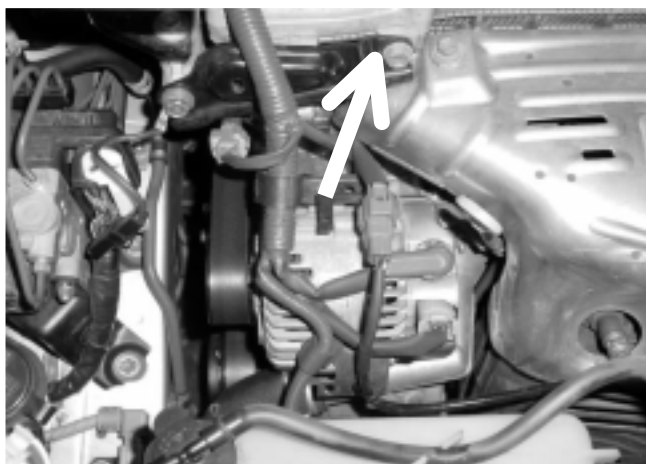
(8) エスティマの場合は、写真を参考にブレーキフルード リザーバータンクステアを外し、付属の20. リザーバー移動ステア、①六角ボルトM6×12 2個を使って矢印の方向に移動する。



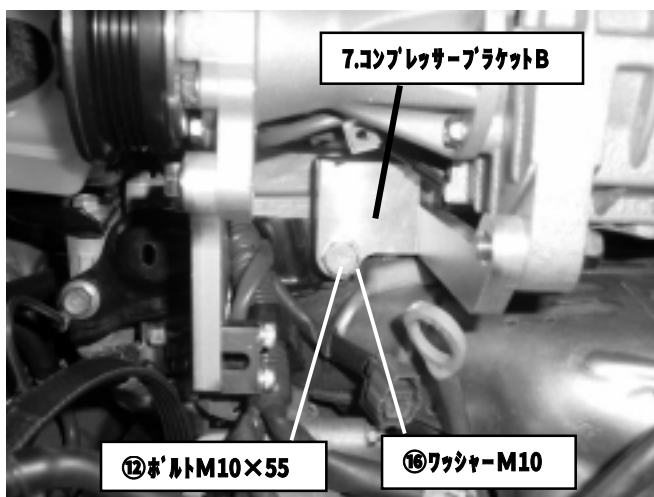
(9) 1. コンプレッサー本体のステア部に6. コンプレッサーブラケットAを7. コンプレッサーブラケットBで挟むような形にし、⑪フランジボルトM10×35 2箇所、⑫六角ボルトM10×55、⑩M10ワッシャー (1箇所) を使用し、締付ける。
 $T=52\text{ N}\cdot\text{m}$ (531 kgf·cm) (M10)



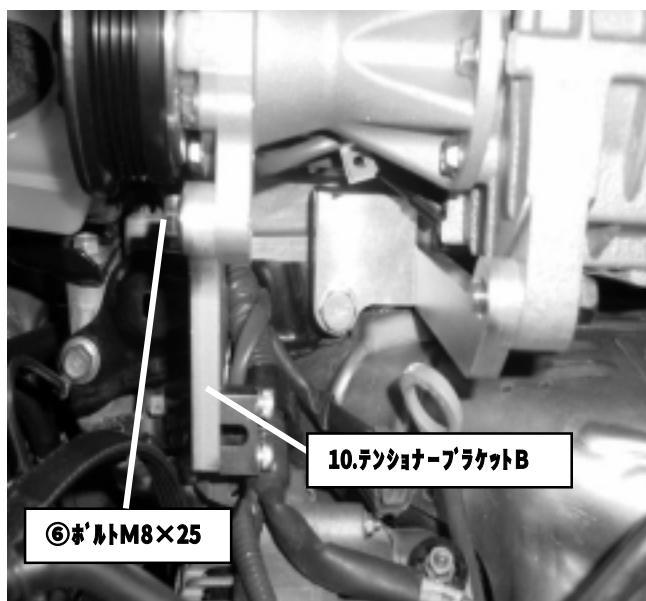
(10) 1. コンプレッサー本体に4. コンプレッサーガスケットを使用し3. アウトレットチャンバーを②フランジボルトM6×16 4箇所、③フランジボルトM6×30 1箇所④フランジボルトM6×35 1箇所で締付ける。
 $T=9.8\text{ N}\cdot\text{m}$ (100 kgf·cm) (M6)



(11) 写真矢印のエンジンマウンティングステーのボルト (M10) を取り外す。



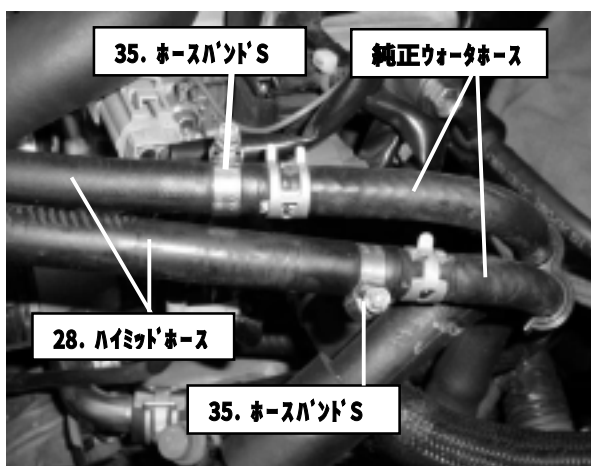
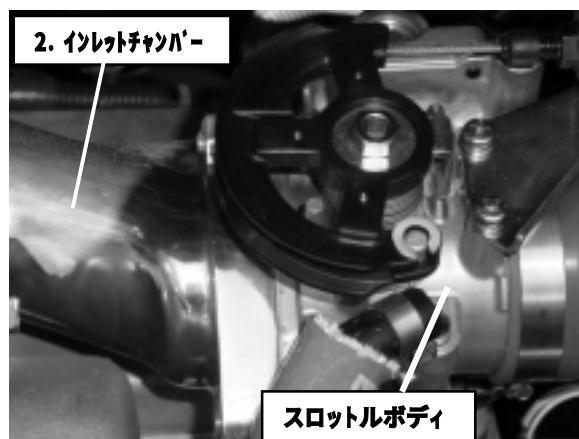
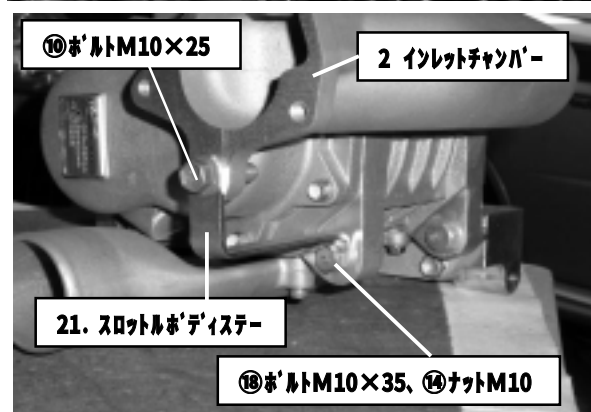
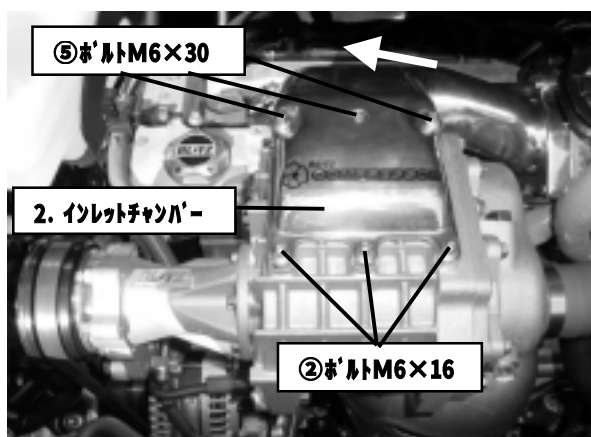
(12) 写真のように (11) で外したボルト位置に7. コンプレッサーブラケットBを⑫六角ボルトM10×55、⑯ワッシャーM10で仮止めする。この時にオルタネータ内側にかけておいた26. Vベルト小を1. コンプレッサー本体プーリー部にかけてながら取り付ける。



(13) 1. コンプレッサー本体ノーズ部と10. テンショナーブラケットBの穴位置を合わせ⑥フランジボルトM8×25 2箇所を仮止めする。

(14) 仮止めのままだったボルト、
1. 10. テンショナーブラケットB
2. コンプレッサー本体ノーズ部
3. 7.コンプレッサーブラケットB
の順番で締付ける。

$T = 21 \text{ N} \cdot \text{m} (214 \text{ kgf} \cdot \text{cm}) \quad (\text{M8})$
 $T = 52 \text{ N} \cdot \text{m} (531 \text{ kgf} \cdot \text{cm}) \quad (\text{M10})$



- (15) 1. コンプレッサー本体に、4. コンプレッサーガスケットを使用し、2. インレットチャンバーを②フランジボルトM6×16 3箇所、⑤キャップボルトM6×30 3箇所で締付ける。

$T=9.8\text{N}\cdot\text{m}$ (100kgf·cm) (M6)

※ エスティマの場合、左図矢印部分のバルクヘッド (角部分) と2. インレットチャンバーが干渉してしまう恐れがあります。エンジン始動後干渉してしまう場合には削ってください。

※ 加工した所は防錆処理を行ってください。

- (16) 2. インレットチャンバーフランジ下部、M10ネジ穴部分と1. コンプレッサー本体右奥のφ11部分を21. スロットルボディー、⑩フランジボルトM10×25、⑬小型六角ボルトM10×35、⑭フランジナットM10で締付ける。

- (17) 2. インレットチャンバーに5. スロットルボディ ガスケットをスロットルボディで挟み、11ページ (14) 項で取り外した純正ボルトで締付ける。

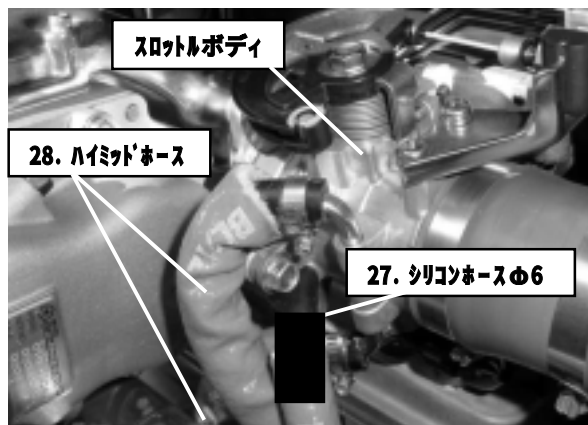
$T=21\text{N}\cdot\text{m}$ (214kgf·cm) (M8)

※ スロットルポジションセンサーのカプラー及びアイドルスピードコントローラのカプラーを取り付ける。

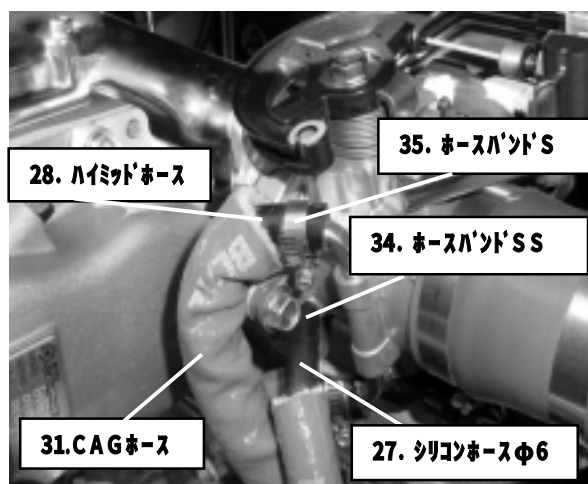
※ アクセルコントロールケーブルを取り付ける。

※ エンジン始動後に、アクセルコントロールケーブルステーが、ボディに干渉する場合は、再度各部をゆるめ、干渉しないように調整してください。

- (18) 28.ハイミッドホースと純正ウォーターホースを付属の30. ストレートニップルφ8で連結し35.ホースバンドSで締付ける。



(19) 10ページの(7)、(8)項で外したバキュームホース、ウォーターホースで、VSVからスロットルバルブまでを**29. シリコンチューブφ6**、純正ウォーターホース取り外し部分(純正ウォーターホースはなるべくスロットルボディ近くまで持ってくる)からスロットルバルブまでに**28. ハイミッドホース(2本)**を各々長さを合わせカットし、スロットルバルブに各々差して下さい。

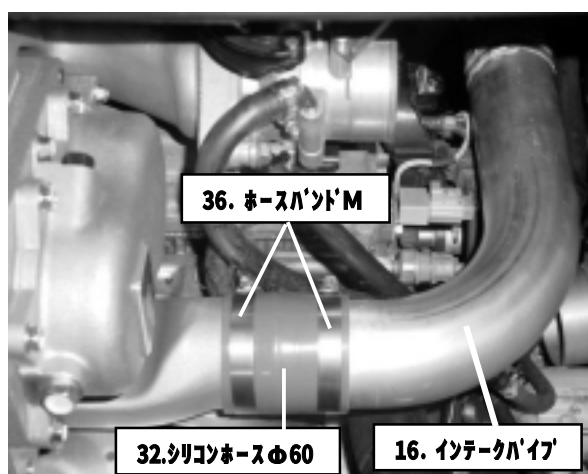


(20) (19)で挿し込んだ27. シリコンホースφ6を**34. ホースバンドSS 2個**でVSV側、スロットルボディ側を締付けてください。

※ 34. ホースバンドSSは、シリコンの表面が割れない程度に締付ける。

(21) スロットルボディ側のハイミッドホースを**35. ホースバンドS**で締付ける。

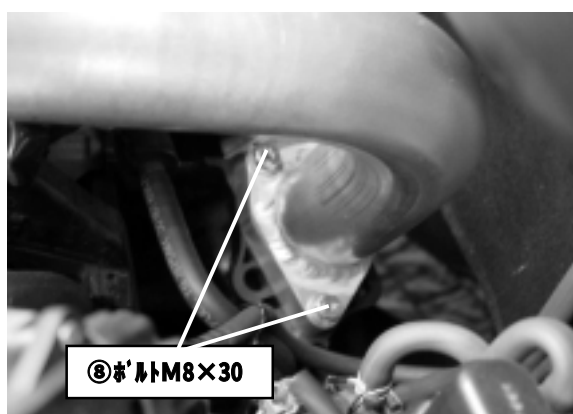
(22) エキゾーストマニホールド近くのハイミッドホースには写真のように**31. CAGホース**で断熱してください。



(23) 3. アウトレットチャンバーにあらかじめ**32. シリコンホースφ60**、**36. ホースバンドM 2個**を差しておき、**16. インテークパイプ**を36. シリコンホースに差し込む。

※ 36. ホースバンドMは遊んだ状態のままにしておく。

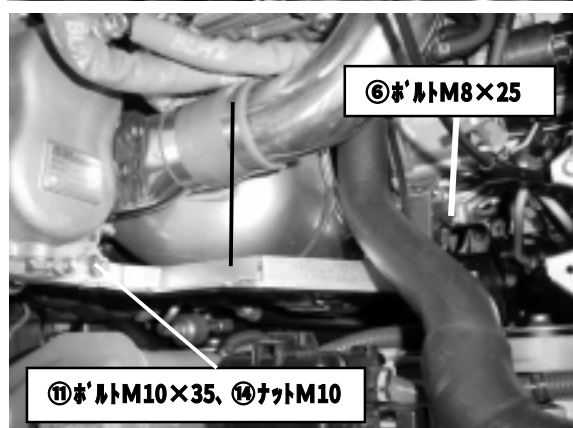
※ イプサムの場合アップパーホースに16. インテークパイプが干渉してしまう恐れがあります。エンジンプロック側のアップパーホースを時計回りに若干まわし、16. インテークパイプをよけてください。



(24) 16. インテークパイプ フランジ部を純正インテークマニホールドフランジ部に合わせ、⑧キャップボルトM8×30を3箇所締付ける。その後36. ホースバンドM (2箇所) を締付ける。

※ ⑧キャップボルトを締付ける際、3. アウトレットチャンバー出口と16. インテークパイプ入口を合わせた状態を保持しながら締付ける。

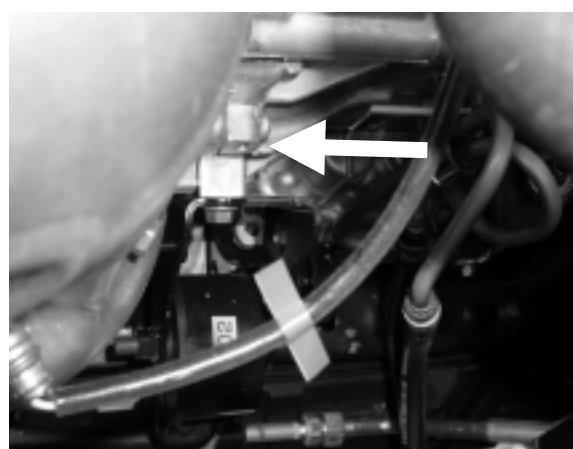
$T=21\text{ N}\cdot\text{m}$ (214 kgf·cm) (M8)



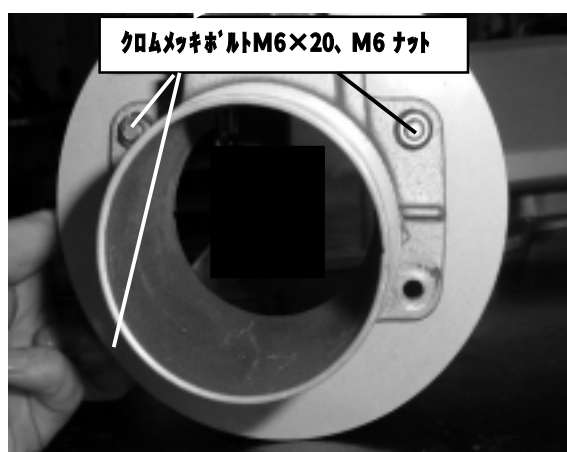
(25) 写真を参考に8. コンプレッサーブラケットCを⑥フランジボルトM8×25、⑪フランジボルトM10×35、⑭フランジナットM10を使用し取り付ける。

$T=21\text{ N}\cdot\text{m}$ (214 kgf·cm) (M8)

$T=52\text{ N}\cdot\text{m}$ (531 kgf·cm) (M10)



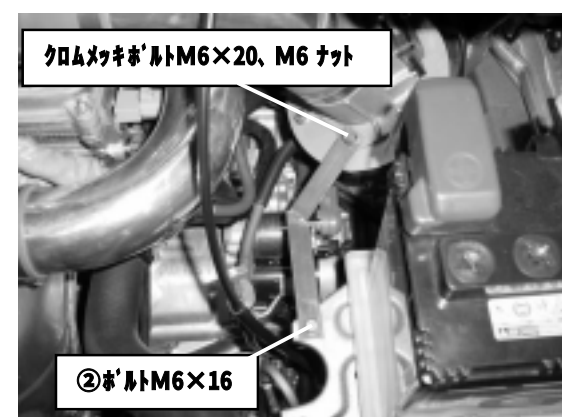
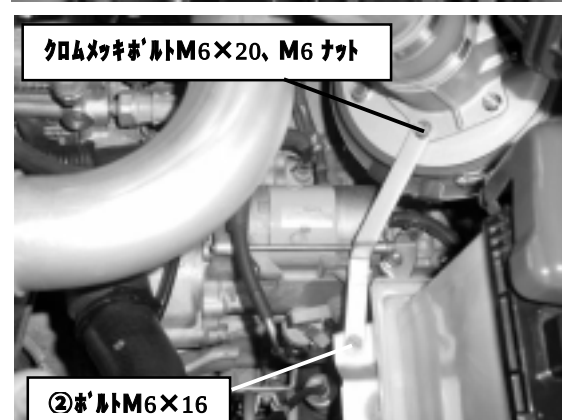
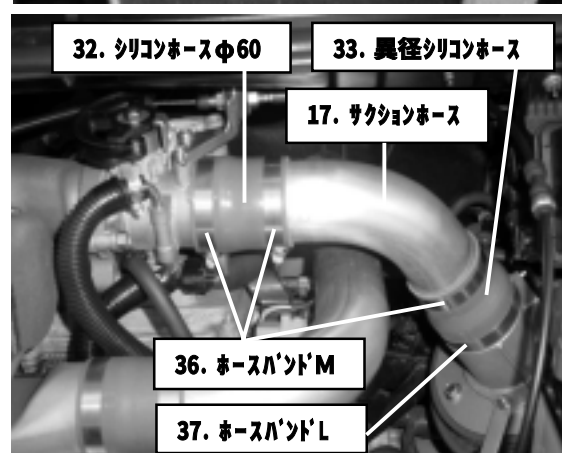
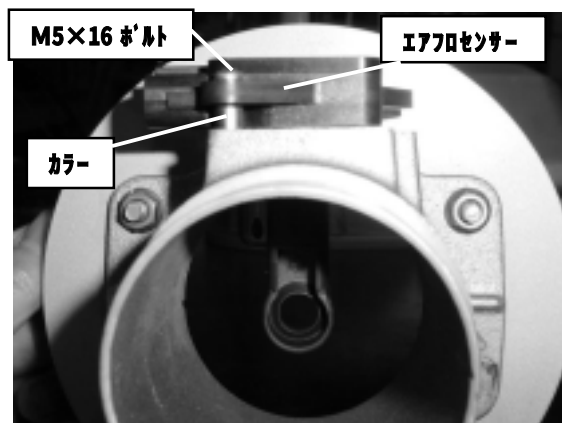
(26) エスティマ、アルファードの場合は、左図の位置が8. コンプレッサーブラケットC取り付け穴位置です。



(27) 39. クリーナーアダプターを付属のクロムメッキボルトM6×20、M6ナットを使用して写真のように3箇所に取り付ける。

※ 写真右下はステーと共締めになるため、取り付けない。

$T=9.8\text{ N}\cdot\text{m}$ (100 kgf·cm) (M6)



(28) 純正エアクリーナーに付いているエアフロメータを取り外し、**39. クリーナーアダプター**にエアフロメータを差し込み、付属のM5×16ボルト、カラーを、写真を参考に取り付ける。(2箇所)

※ Oリングは接着部の傷つき、異物の付着に対して十分注意し、ねじれたりしないよう差し込んでください。

(29) 図を参考に最初に**40. LMクリーナー**を入れておき、**17. サクションホース**を**32. シリコンホースφ60**、**33. 異径シリコンホース**、**36. ホースバンドM** 3箇所、**37. ホースバンドL**を使用して、スロットルボディからクリーナーアダプターまで取り付ける。

※ 各ホースバンドは遊んだ状態にして下さい。

※ 40. LMクリーナーはステーを固定した後で取り付けになります。

(30) エアクリーナーステー取り付け エスティマの場合

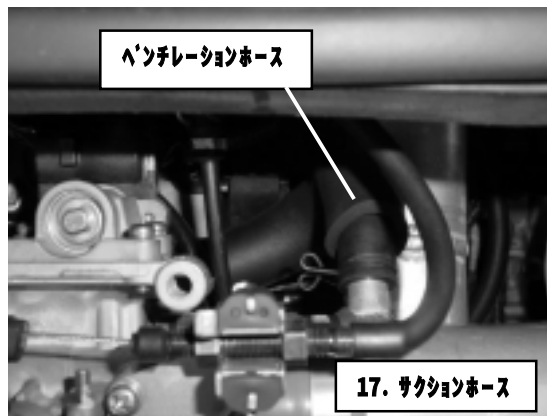
左写真を参考に**22. クリーナーステー**をバッテリー脇と**39. クリーナーアダプター**に**クロムメッキボルトM6×25**、**M6ナット**、**②フランジボルトM6×16**を使用して取り付ける。

$T = 9.8 \text{ N} \cdot \text{m} (100 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$ (M6)

アルファードの場合

左写真を参考に**22. クリーナーステー**をバッテリー脇と**39. クリーナーアダプター**に**クロムメッキボルトM6×25**、**M6ナット**、**②フランジボルトM6×16**を使用して取り付ける。

$T = 9.8 \text{ N} \cdot \text{m} (100 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$ (M6)



(31) 9ページ(6)項で外したベンチレーションホースを、17. サクションパイプに長さを合わせてカットし差し込む。

※ このときベンチレーションホースがつぶれないよう気をつけてください。

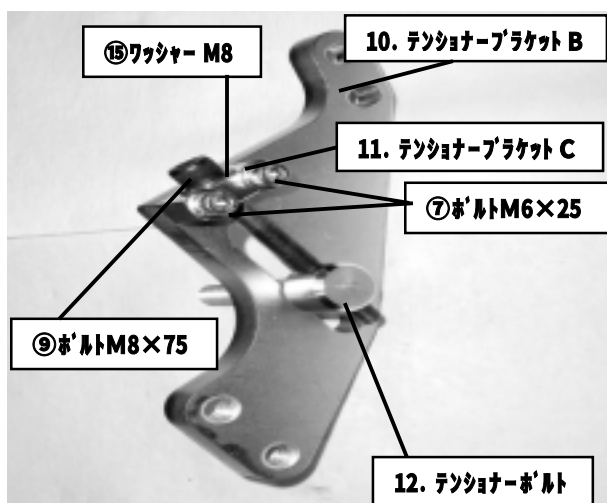
(32) 最後に片止めしておいた36. ホースバンドM、37. ホースバンドLを締付ける。

(33) エアフロメーターのカプラーを取り付ける。

(34) VSVを遊ばないようにタイラップで固定する。

※ ハーネス、ホースが遊ばないようにタイラップ等で固定してください。

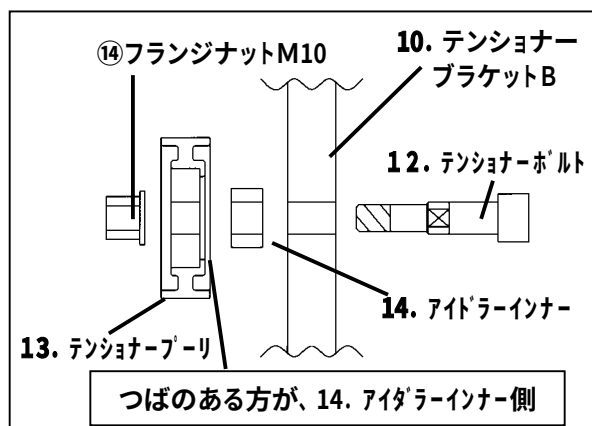
(35) 40. LMクリーナーを39. クリーナーアダプターに取り付ける。



(36) 車両に付いている10. テンショナーブラケットBに11. テンショナーブラケットCを⑦キャップボルトM6×25(2箇所)で締付ける。

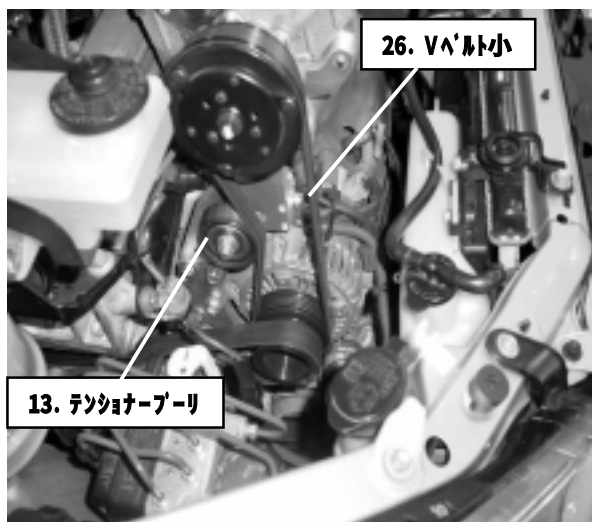
$T = 9.8 \text{ N} \cdot \text{m} (100 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$ (M6)

(37) 12. テンショナーボルトを10. テンショナーブラケットBを差し、⑨キャップボルトM8×75、⑮ワッシャーM8を11. テンショナーブラケットCを通して12. テンショナーボルトに取り付ける。



(38) 左図を参考に、12. テンショナーボルトに14. アイドラーインナー、13. テンショナープーリを挟み、⑭フランジナットM10で仮止めする。

※ 13. テンショナープーリの向きに注意して下さい



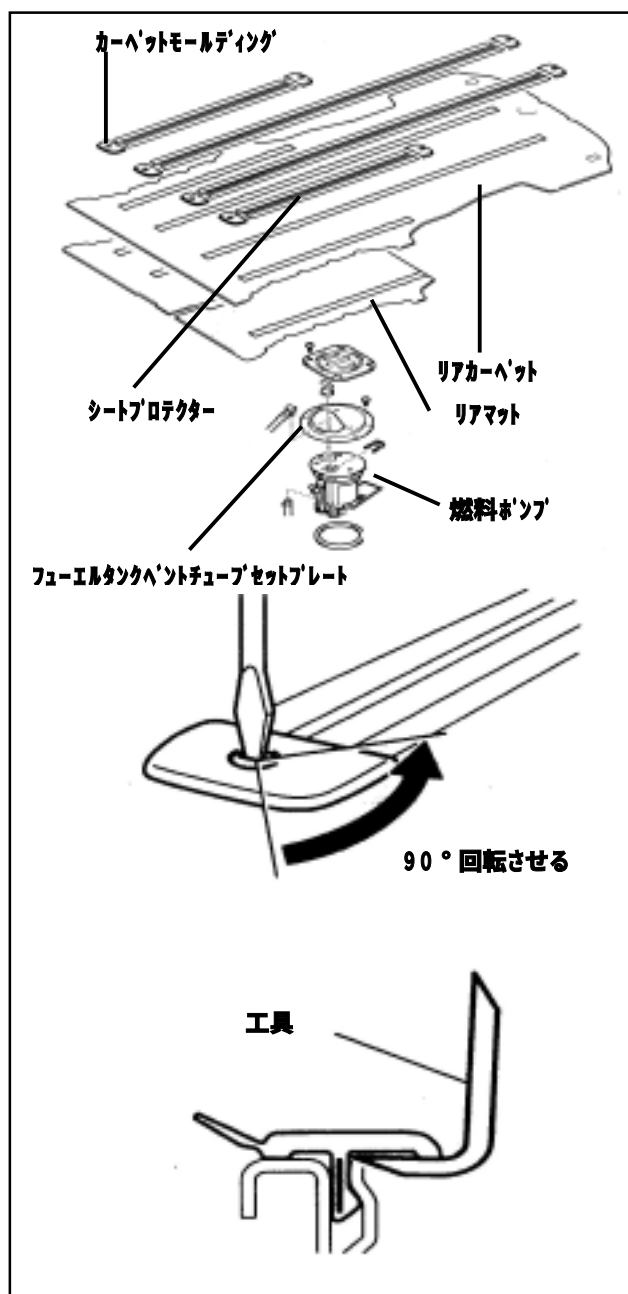
- (39) ⑨キャップボルトM8×75を調節して、26. Vベルト小にテンションをかけ、14. フランジボルトM10を本締めする。

$T = 52 \text{ N} \cdot \text{m} (531 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$ (M10)

- ※ 左写真、矢印の位置で26. Vベルト小のたわみ量を調節する。

※ Vベルトたわみ量 (mm)

	新品取り付け時	点検時
たわみ量	7～8.5	11～13



(40) 27. レギュレータ交換。

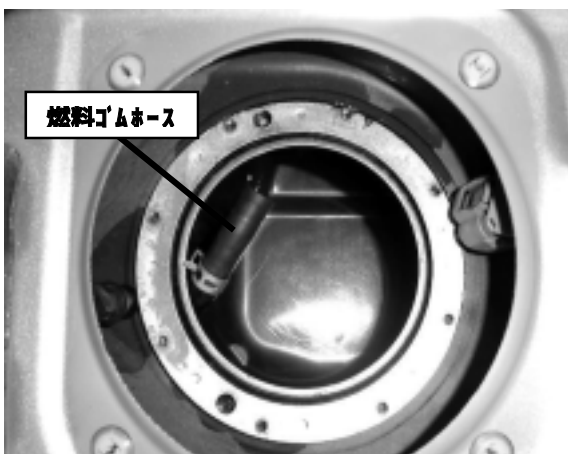
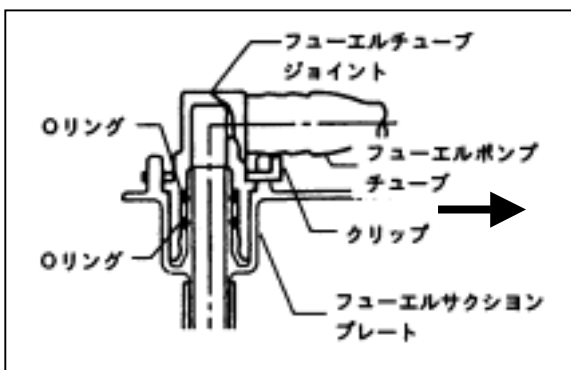
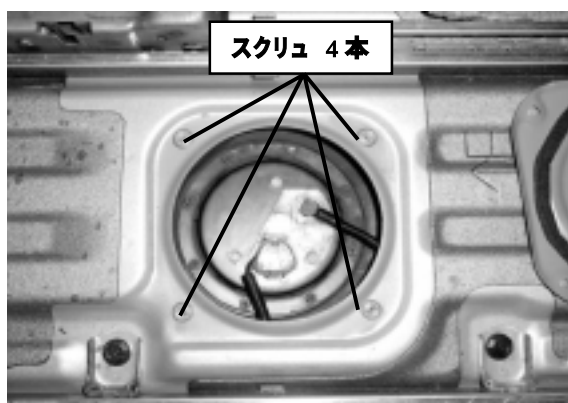
- 1 2列目シートの下にあるカバー4箇所、ボルト4箇所ずつ外し、2列目のシートを車両より取り外す。

- 2 マイナスドライバーを使用してスクリー部を左に90°回転させてロックを外し、カーペットモールディングを各々取り外す。

- 3 ツメのかん合を外し、シートレールプロテクターを取り外す。

※変形しやすいため無理にこじったり、引っ張ったりしないでください。

※センターの長いシートレールプロテクターは、3列目手前まで外し、遊んでいる状態にしてください。



4 リアカーペット、リアマットを燃料ポンプ位置が見えるまでめくり上げる。

5 スクリュ4本を外し、フューエルタンクカバーを取り外す。

6 クリップの先端を広げ、矢印方向へ引き抜く。

7 フューエルベントチューブセットプレート (21ページ図参照) を外す。

8 フューエルポンプチューブを上方へ引き上げて取り外す。

注意

※作業前にクリップ部に付着した泥などの異物を取り除く。

※フューエルチューブジョイントは、Oリングによりフューエルポンプチューブとフューエルサクションプレートをシールしている為、接着部の傷つき、異物の付着に対して十分注意して作業を行う。

※脱着作業は必ず手で行い工具などを使用しない。

※フューエルポンプチューブを無理に曲げたり、折ったりおよび回転させたりしない。

※取り外した後、接着部をビニール袋で保護する。

※フューエルポンプチューブとフューエルサクションプレートが固着している場合は、手でフューエルポンプチューブを回転させたりして固着を解除してからフューエルポンプチューブを引き上げて取り外す。

9 カプラーを切り離す。

10 M5ボルト8本を外し、フューエルタンクベントチューブセットプレートを取り外す。

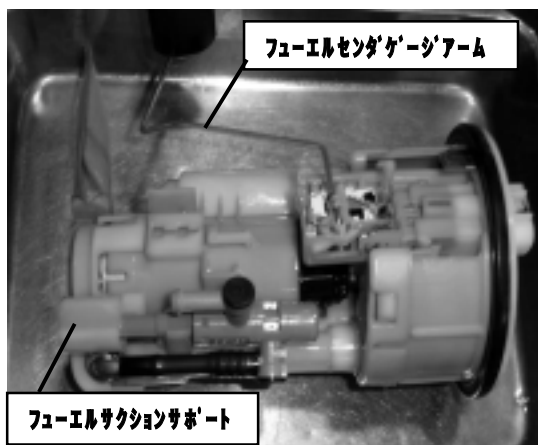
11 フューエルポンプASSYをタンクよりゆっくり抜き取る。

注意

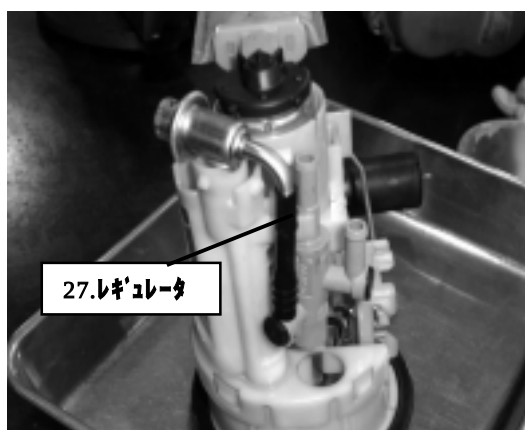
※フューエルポンプフィルターを傷つけない。

※フューエルセンダゲージアーム部が曲がらないように注意する。

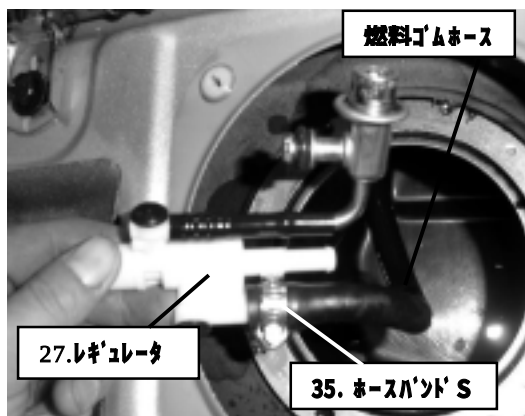
※左図のように燃料ゴムホースを燃料タンク内に落とさないよう注意してください。



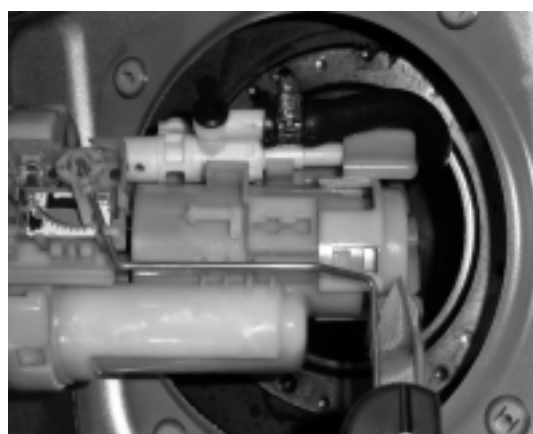
- 12 マイナスドライバーを使用してツメのかん合を外し、フューエルサクションサポートを取り外す。
- 13 フューエルポンプクッションラバーを取り外す。



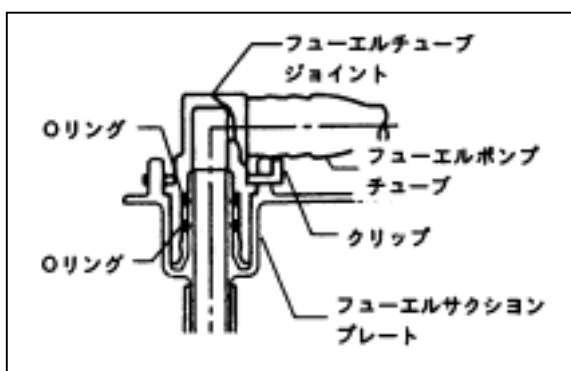
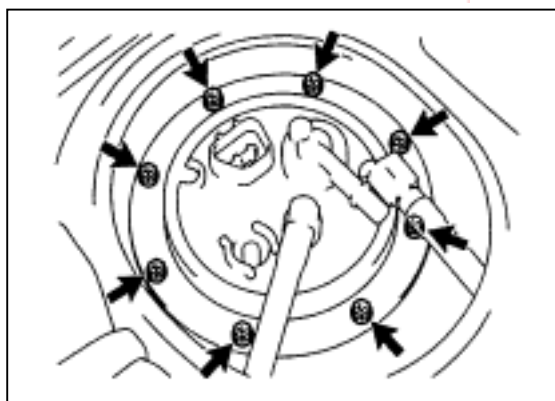
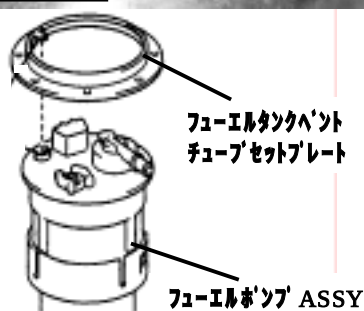
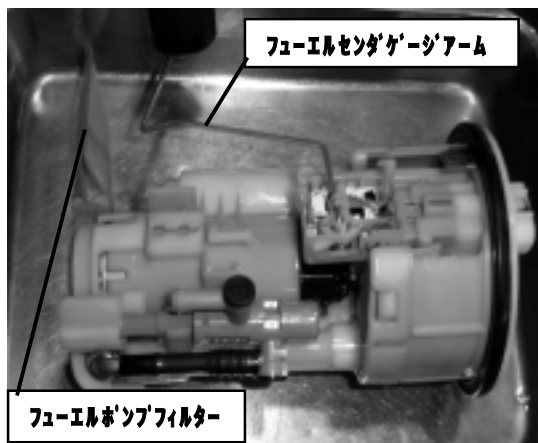
- 14 フューエルプレッシャーレギュレータ取り外す。



- 15 燃料ゴムホースに27. レギュレータを差し込み、35. ホースバンドSで締め付ける。
※ 差し込みずらい場合は燃料ゴムホースをガソリンを塗布してから差し込んでください。



- 16 左図のように付属の27. レギュレータのOリング部にガソリンを塗布して取り付ける。
※ Oリングは接着部の傷つき、異物の付着に対して十分注意し、ねじれたりしないよう差し込んでください。
- 17 フューエルポンプクッションラバーを取り付ける。
- 18 フューエルサクションサポートを取り付ける。



ポンプ取り付け

1 フューエルポンプフィルター、フューエルセンダゲージアームを傷つけたり、曲げたりしないようゆっくりとフューエルポンプASSYを燃料タンクに挿入する。

2 フューエルタンクベントチューブセットプレートを位置を合わせてフューエルポンプASSYにはめ込む。

3 M5ボルト 8 本でフューエルタンクベントチューブセットプレートを取り付ける。

$$T = 3.5 \text{ N} \cdot \text{m} (36 \text{ kgf} \cdot \text{cm}) \quad (\text{M5})$$

4 フューエルポンプチューブをフューエルサクションプレートのプラグ部差し込み、クリップを取り付ける。

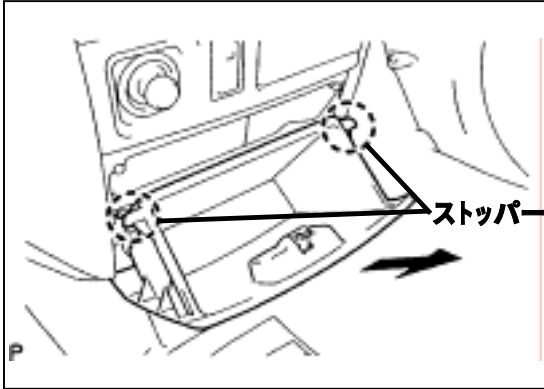
注意

- ※ 接着部に傷及び異物などの付着がないことを確認する。
- ※ クリップの向きに注意する。
- ※ クリップがフューエルポンプチューブのツバの上にあることを確認する。
- ※ クリップを取り付けた後、フューエルポンプチューブが抜けない事を確認する。
- ※ クリップが外れると、フューエルチューブジョイントが外れてしまい、ガソリンが漏れ、車輛火災などの重大事故に発展してしまいます。取り付け後必ず上記の作業を確認してください。
- ※ クリップにガタがある場合は、新品と交換してください。

5 カプラーを取り付ける。

6 スクリュを締め込み、フューエルタンクカバーを取り付ける。

7 取り外しと逆の手順で内装、シートを取り付ける。



(41) グラブコンパートメントドアを取り外す。

注意

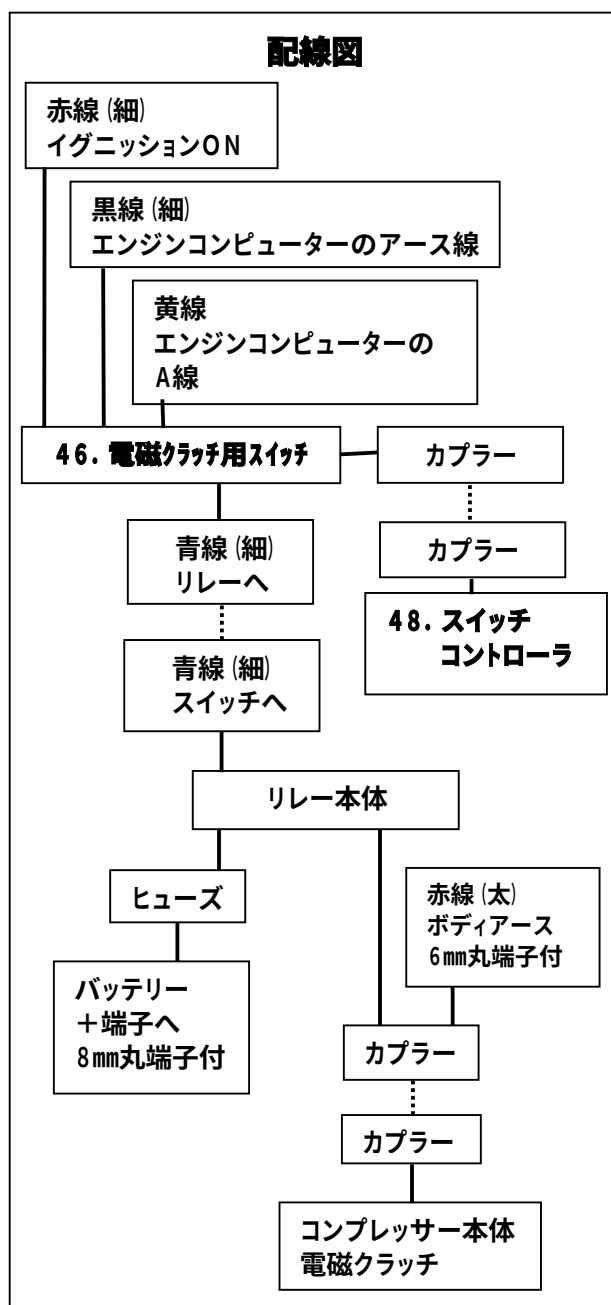
配線の接続方法について

(42) 以降の配線の接続は、**49. ギボシ・スリーブセット**と**50. エレクトロタップ**の、どちらかを使用して作業を行って下さい。また、配線の断線・接触不良等には、**十分注意して、作業してください。**



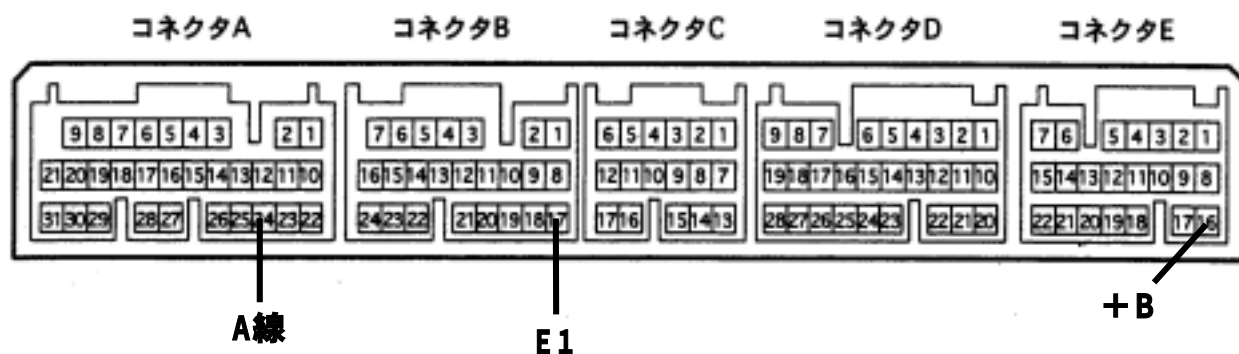
(42) **45. リレーハーネス取り付け**

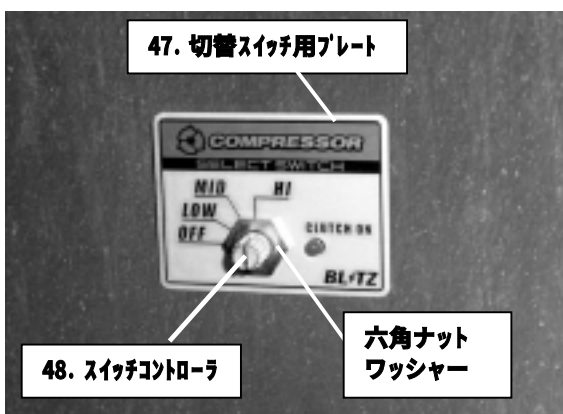
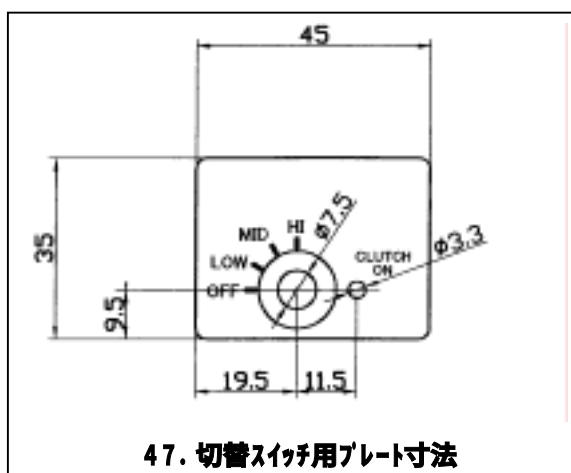
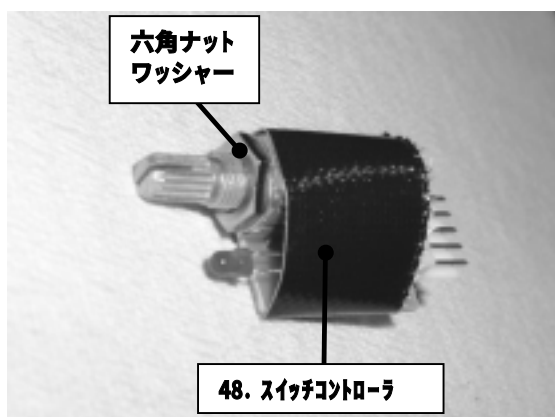
- 1 45. リレーハーネスのカプラーを、1コンプレッサー本体から出ているカプラーに接続する。
 - 2 45. リレーハーネスのリレー本体を図の位置に**②フランジボルトM6×16**、**⑰フランジナットM6**を使用して取り付ける。
(参考例です)
 - 3 **②フランジボルト M6×16 (1ヶ)**を使用して、45. リレーハーネスのカプラーから出ている赤線(6mm丸端子)を、ボディアースに、取り付ける。
 - 4 45. リレーハーネスのリレー本体から出ている赤線(8mm丸端子)を、バッテリープラス端子に接続する。
- ※バッテリーに接続する線と、ボディアースする線を、間違えないように注意してください。
- 5 1～4で取り付けした配線類と室内に引き込んだ青線を、**38φ7コルゲートチューブ**で被覆し、**42. タイラップ**を使用して固定する。
- ※高熱部や可動部に接触しない安全な位置に固定してください。



(43) **46. 電磁クラッチ用スイッチ**取り付け。

- 1 46. 電磁クラッチ用スイッチの黄線を、エンジンコントロールコンピュータハーネスの、A線に、接続する。
- 2 46. 電磁クラッチ用スイッチの黒線(細)を、エンジンコントロールコンピュータハーネス(E1)線に接続する。
- 3 46. 電磁クラッチ用スイッチの赤線(細)を、イグニッション ON 電源(+B)に接続する。
- 4 46. 電磁クラッチ用スイッチの青線を、(42)の5で引き込んだ45. リレーハーネスの青線に、接続する。





(44) 48. スイッチコントローラおよび47. 切替スイッチ用プレート取り付け。

- 1 48. スイッチコントローラの調節ツマミ部の六角ナットおよびワッシャーを取り外す。
- 2 48. スイッチコントローラを取り付ける場所に、穴開け加工する。

※穴寸法は、図をご参照ください。なお、取り付け部分の厚み等により、若干の寸法の調整が必要です。

- 3 開けた穴に、48. スイッチコントローラの調節ツマミ部と、赤色 LED を通し、表面の保護シート、剥離紙を剥がした47. 切替スイッチ用プレートを上から被せ、六角ナットで固定する。

- 4 切替スイッチ用プレートを、貼り付け、固定する。

- 5 48. スイッチコントローラのツマミ取り付け部を半時計回りに止まるまでまわし、調節ツマミを取り付け、マークをOFFに合わせてイモネジで締付ける。

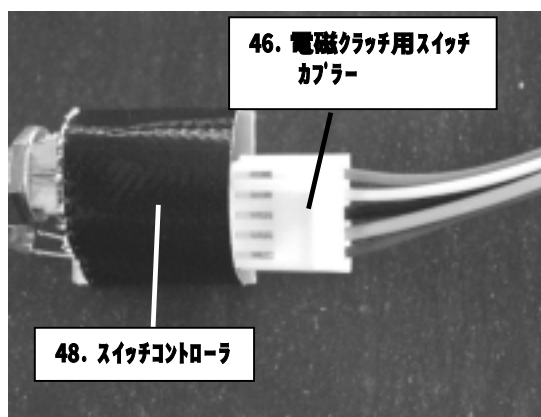
※調節ツマミをまわし、プレート位置とツマミマークが合っている事を確認してください。

- 6 48. スイッチコントローラのカプラーと、46. 電磁クラッチ用スイッチのカプラーを接続する。

(45) (42)・(43)・(44) で取り付けたスイッチ類本体および配線類を42. タイラップを使用して、固定する。

※高熱部や可動部に接触しない安全な位置に固定してください。

- (46) グラブコンパートメントドアを、取り外しと逆の手順で取り付ける。



(47) 冷却水注入

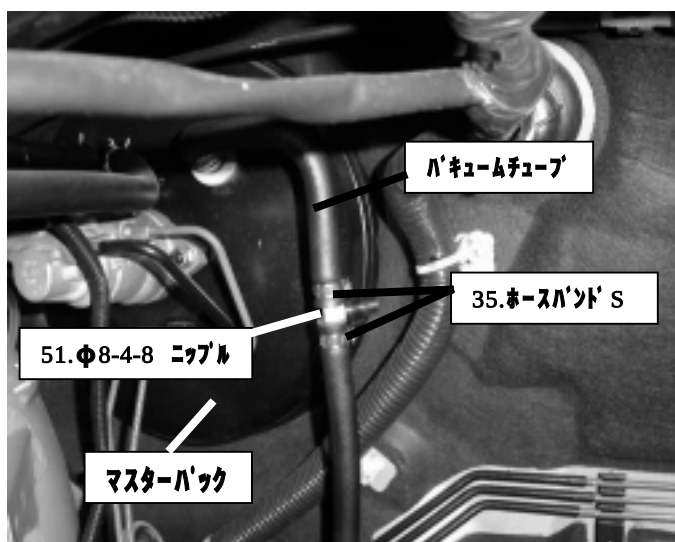
- 1 ラジエタードレインコックを閉じて、冷却水をラジエター注入口よりあふれるまで注入する。
- ※ ラジエターインレットホースおよびラジエターアウトレットホースを手で数回圧迫し、ラジエター注入口の水位が下がる様であれば、追加注入する。
- 2 ラジエターキャップを閉じる。
- 3 ラジエターリザーバタンクに冷却水を上限まで注入する。
- 4 サーモスタットが開弁するまで、エンジンを暖機する。
- ※ 暖気中に、ラジエターインレットホースおよびアウトレットホースを、数回圧迫して下さい。なお、ホースは熱くなりますので、火傷には十分注意してください。
- 5 エンジンを止め、冷却水が冷えるまで待ち、ラジエターキャップを外して、水位を確認する。
- 6 水位が下がっている場合は、1 から繰り返す。
- 7 水位が下がらなくなったら、ラジエターリザーバタンクの冷却水を調整する。

(49) バッテリーのマイナス端子を取り付ける。

- (50) イグニッションをONにし、48. スイッチコントローラをLOWの位置に合わせ、アクセルを踏み込んだ時に、コンプレッサープールのクラッチが「カチッ」と入ることを確認してください。

以上で、本キットの取り付けは終了です。

ブースト計を取り付けされるお客様へ



左図を参考にマスターパックに配管されているΦ8バキュームチューブをカットし、51. ニップルΦ8-4-8のΦ8側をカットしたバキュームチューブに各々差し込み、35. ホースバンドSで(2箇所)締め付けてください。Φ4側からブースト圧を取ってください。

(7) 取り付け後の確認

■ エンジン始動前の確認

- ・ パイプ、ホース等配管及び配線に間違いがないか確認してください。
- ・ ボルト、ナット類の締め忘れがないか確認してください。
- ・ ガソリンはハイオクガソリンが入っているか確認してください。

■ エンジン始動後の確認

- ・ コンプレッサーから異音等がないか確認してください。
- ・ 軽く空ぶかしをおこない、Vベルト、コンプレッサー等に異常がないか確認してください。(ベルトのスリップ、歯とび)
- ・ 冷却水、燃料、オイル等の漏れがないか確認してください。

(8) メンテナンス

快適に運転していただく為、お車を運転する前には必ず日常点検を行ってください。
尚、本キットを取り付けた後に維持、管理する項目については必ず実施してください。

■ コンプレッサーキット装着時の維持、管理項目

- ・ エンジンオイルの定期的な交換 (推奨 5000Km以内で交換)
- ・ エンジンオイルフィルターの定期的な交換 (推奨 10000Km以内で交換)
- ・ ハイオクガソリンの使用 (レギュラーガソリンは絶対に使用しないでください)

※キットには専用ハイオクステッカーを付属しています。給油口内側に貼り付ける事をお勧めします。

■ Vベルトのメンテナンスについて

本コンプレッサーキットでは、Vベルトを利用しコンプレッサーを回転させ、過給を発生させています。定期的にVベルトの点検・張りの調整を行ってください。

- ・ Vベルトの点検・張りの調整 推奨5000kmで点検・調整

※Vベルトは、新品初期に一番伸びる特徴があります。新品Vベルトを取り付けた際は500km以内で、張りを調整して下さい。

- ・ Vベルトの交換 Vベルトの交換サイクルは車両の状態・運転の状況により異なります。Vベルトにヒビ、亀裂、歯とび等の劣化が確認された場合には交換をお勧めします。

※Vベルトの点検・張りの調整を行わない場合、Vベルトがスリップしてしまう事があります。Vベルトがスリップしている状態ではコンプレッサー本来の性能を発揮できない場合があります。

(9) 推奨パーツ

- ・ プラグ BLITZ Iridium Spec 77 T7340B-6 コードNo. 14436
- ・ プラグ BLITZ Iridium Spec 77 T7340B-7 コードNo. 14437
- ・ 2AZ-FE車 : 25Vベルト大(7PK1980) コードNo. 10135-011
- ・ 2AZ-FE車 : 26Vベルト小(4PK750) コードNo. B9335

(10) セレクトスイッチについて

本キットでは、電磁クラッチの作動ポイントをドライバーの好みに応じて選択できる、セレクトスイッチを採用しています。コンプレッサーの作動ポイントをOFF/LOW/MID/HIの4つの中から選択できます。又、コンプレッサー作動時にはLEDが赤く光り電磁クラッチがON状態であることをドライバーに知らせます。

OFF:コンプレッサーは常にOFF状態です。

LOW:アクセルを少し踏むだけでコンプレッサーが作動します。

排気量をUPしたようなフィーリングが味わえます。

MID:アクセルを半分くらい踏み込んだ時にコンプレッサーが作動します。

定速走行・加速走行を自在に操る事ができます。

HI:アクセルをほぼ全開に踏み込んだ時だけコンプレッサーが作動します。

加速したい時だけコンプレッサーを作動させる事ができますので、メリハリのある走行が可能です。

注意

OFF位置はキット未装着(ノーマル)状態ではありません。

OFF位置での走行はKIT未装着(ノーマル)状態と比較するとフィーリングが若干低下してしまいます。

●製品についてのご相談先

製品についてのお問い合わせは、お電話またはFAXにて下記宛てにお願いします。

■連絡先 (株)ブリッツ

■TEL 0566-79-2200

■住所 愛知県安城市高棚町大道40-1

■FAX 0566-79-2070

製造・発売元

株式会社ブリッツ

取扱説明書番号

10155002

初版作製年月日

2003.6.18

BL⚡TZ